

## ホスゲン対応マニュアル

病院	第一報受信 患者到着 除染 救命措置 鑑別診断*	重症度判定 （低濃度暴露では肺水腫が遅れて出現するので、後に再評価が必要） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     重症：呼吸障害、肺水腫、意識障害、血圧低下、チアノーゼ                      中等症：咳、呼吸困難、頭痛、めまい、眼痛、皮膚熱傷                      軽症：喘鳴、嘔声、眼刺激、流涙、皮膚刺激                      極軽症：眼・皮膚の軽度の刺激症状のみ                 </div>	治療 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     暴露した可能性がある場合は少なくとも6時間は経過観察が必要                      呼吸循環管理                      肺水腫対策                      気管支痙攣：気管支拡張薬の投与                      二次感染対策                 </div>	
	患者名簿作成 検査：血液ガス分析、胸部X線検査、分析用検体（血液・尿・吐物等）採取・提出（琉球大学等へ） 院内緊急連絡 （応援スタッフ）	ベッド確保 対策本部へ経過報告（随時） （発生状況、症状・重症度、患者再搬送依頼等）	分析結果入手（治療法の再検討）	
中毒派遣医	助言・相談 / 治療マニュアル各部署へ 対策本部へ状況報告（随時）	治療（必要な場合）	分析結果の検討・助言	中長期的経過観察
日本中毒情報センター対策本部	原因物質検討（中毒君、DB等） 推定原因物質連絡 / 治療マニュアルの配布 他機関より検知結果入手し中毒臨床医へ連絡 検知結果により治療マニュアルの追加送付	患者収容状況の確認（随時）	分析結果入手し中毒臨床医へ連絡 分析結果により治療マニュアルの追加送付	
備考	二次汚染予防 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     保護具レベルD着用                      ホスゲンは空気より重い                      特異的解毒剤はない                 </div>	*神経剤、びらん剤、血液剤、窒息剤、催涙剤等の鑑別（別紙）		